

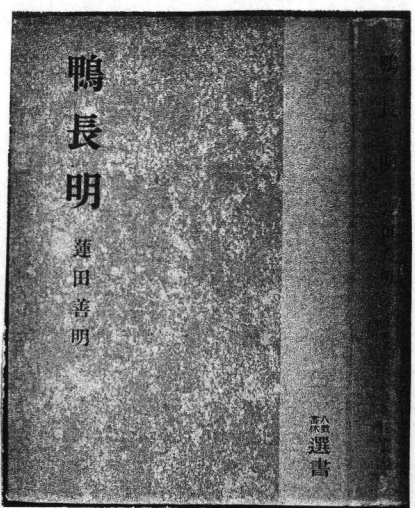
蓮田善明 （徳島県） 國文學者。明治二十七年七月、二十八日熊本縣生れ、

昭和二十年八月歿（九〇四一四）。昭和十年廣島文理科大學創設國文學科卒。在學中清水文雄、栗山理一、池田勉と研究社要『國文學試論』を、次で雑誌に『文藝文化』を創刊。臺中商業學校を経て十二年成城高等學校教授も應召し、十五年負傷歸還。十八年南方へ派遣せられ、マレー半島で終戦、自裁した。

著書『現代語譯古事記』（譯、昭和九年十一月十七日机上社「古事記普及叢書」）、『鷗外の方法』（昭和十四年十一月十八日「文書房」「文藝文化叢書」）、『野村望東楼著「夢かぞへ」』（校訂、昭和十七年七月十五

日春陽堂書店「新文庫」）、『日本活字長』（昭和十八年四月十日新潮社「日本思想家選集」）、『鴨長明』（昭和十八年九月十日八雲書林「八雲選書」）、『超克の美』（八雲書林選書））、『皇國文學會編、昭和十八年九月二十

日昭森社「皇國文學叢刊」）、『神韻の文學』（昭和十八年十月五日京都、一條書房）、『忠誠心と女び』（昭和十九年六月、二十日日本放送出版協會「ラジオ叢書」）、『花のこころ』（古文學の葉）』（昭和十九年十月、二十日河出書房）、『古事記叢抄』（昭和二十年十一月、二十五日



文書房）、『有心一今ものびらり』（小高根の館解説、昭和二十年八月一日鳥津書房）等。

